

日本大学大学院  
新聞学研究科



# 科目名索引

この大学院シラバスは、専攻の順に、今年度開講されている授業科目が掲載されている。

ウ	
ウェブ・ジャーナリズム論特殊講義 .....	3
エ	
映像ジャーナリズム論特殊講義 .....	4
コ	
国際コミュニケーション論特殊講義 .....	5
シ	
ジャーナリズム史（外国）特殊講義 .....	6
ジャーナリズム史（日本）特殊講義 .....	7
ジャーナリズム史特殊研究 .....	8
ジャーナリズム制度（外国）特殊研究 .....	9
ジャーナリズム制度（日本）特殊研究 .....	10
ジャーナリズム調査演習Ⅰ .....	11
ジャーナリズム調査演習Ⅱ .....	12
ジャーナリズム調査演習Ⅲ .....	13
ジャーナリズム理論演習Ⅰ .....	14
ジャーナリズム理論演習Ⅱ .....	15
ジャーナリズム理論特殊研究 .....	16
セ	
政治コミュニケーション論特殊講義 .....	17
政治ジャーナリズム論特殊講義 .....	18
専門演習（研究指導） .....	19
チ	
中国メディア論特殊講義 .....	26
ヒ	
比較コミュニケーション政策論特殊講義 .....	27
比較ジャーナリズム論特殊講義 .....	28
フ	
文献研究（英） .....	29
文献研究（中） .....	31
文献研究（独） .....	32
文献研究（日） .....	33
文献研究（仏） .....	34
メ	
メディア史特殊研究 .....	35
メディア社会論特殊講義 .....	36
メディア制度（外国）特殊研究 .....	37
メディア制度（日本）特殊研究 .....	38
メディア調査演習Ⅰ .....	39
メディア調査演習Ⅱ .....	40
メディア調査演習Ⅲ .....	41
メディア法制特殊講義 .....	42
メディア理論演習Ⅰ .....	43
メディア理論演習Ⅱ .....	44
メディア理論特殊研究 .....	45
メディア倫理特殊講義 .....	46
ヨ	
世論・政治意識とメディア（外国）特殊講義 .....	47
世論・政治意識とメディア（日本）特殊講義 .....	48
リ	
リスクコミュニケーション論特殊講義 .....	49

新聞学研究科

新聞学専攻

科目名	ウェブ・ジャーナリズム論特殊講義	担当者	水野 泰志	部別	大学院新聞 学研究科	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	---------------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	ネット社会の進展に伴い、新たに展開されているウェブにおけるジャーナリズムについて、さまざまな角度から実証的な研究を行う。内外の最新の事例にもとづき、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど既存メディアにおけるジャーナリズムとの比較を通じ、ウェブジャーナリズムの本質、信頼性、影響力、功罪、可能性、課題などを明らかにする。		
到達目標	ウェブジャーナリズムに関する知見の広がりや深まり。		
履修条件	とくになし。		
授業方法	ウェブジャーナリズムの動向について、さまざまな具体的事例を取り上げ、院生が主体的にレポートし、討議する。		
準備学習	ウェブジャーナリズムに関わるさまざまなテーマについて、討議に積極的に参加できるよう、自らの考え方を整理しておく。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	講義への取り組み、レポート発表、討議の内容など。
	平常評価	70%	
教科書	特に指定しない。		
参考書	必要に応じて提示する。		
オフィス アワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	オリエンテーリング	16	ソーシャルメディアの伸展
2	ウェブジャーナリズムの概要	17	掲示板サイトの功罪
3	事例研究に向けたブレインストーミング	18	ブログの活用
4	事例研究のテーマ選定	19	SNSの可能性
5	デジタルメディアの三要素	20	ツイッターの影響力
6	ウェブの特性	21	動画共有サイトの展望
7	ウェブにおけるニュース発信の主体	22	欧米のニュースサイト事情①
8	既存メディアによるウェブ展開①	23	欧米のニュースサイト事情②
9	既存メディアによるウェブ展開②	24	欧米のニュースサイト事情③
10	既存メディアによるウェブ展開③	25	ウェブジャーナリズムの信頼性
11	既存メディアによるウェブ展開④	26	ウェブジャーナリズムの影響力
12	ウェブ専業独立系ニュースサイトの動向①	27	ウェブジャーナリズムの功罪
13	ウェブ専業独立系ニュースサイトの動向②	28	ウェブジャーナリズムの可能性
14	市民参加ニュースサイトの現状	29	ウェブジャーナリズムの課題
15	ウェブ専業ニュースサイトの分かれ目	30	まとめ

科目名	映像ジャーナリズム論特殊講義	担当者	中井 孔人	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	ジャーナリズム機能において活字メディアが優位な中、映像にもジャーナリズムが存在する。わかりやすく情報を発信している映像メディアだが、その影響力は、特に最近では看過できないほど大きなものとなっている。テレビのみならず、近年ではネットの映像が様々な場面で取り上げられ、議論を巻き起こしている。本講義では、テレビを中心に映像におけるジャーナリズムを分析し、その影響力や倫理的法的問題点を、現役のテレビ局員が多角的に解説する。		
到達目標	テレビを中心に映像メディアの現状を把握し、活字とは異なるジャーナリズムのあり方を読み取る。また、問題点など浮き彫りにして分析し、今後の映像ジャーナリズムのあり方について考察できる力を身につける。		
履修条件	テレビのニュースや報道番組、さらにはワイドショーをはじめとする情報番組などに興味を持ち、ジャーナリズムのあり方について議論できることを条件とする。		
授業方法	基本的に講義形式で行う。実際にニュース制作の現場での講義も行う予定である。		
準備学習	必要に応じて、講義時に指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	講義中の事項について理解し、自らの考えや意見を的確に発表できること。
	平常評価	100%	
教科書	特に指定しない。		
参考書	必要に応じて、講義時に指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	オリエンテーション	16	日本におけるテレビと政治
2	映像メディアと活字メディア	17	日本におけるテレビと選挙
3	日本におけるテレビ報道の変遷	18	日本におけるテレビと選挙CM
4	日本におけるテレビ報道の特徴①	19	アメリカにおけるテレビと政治
5	日本におけるテレビ報道の特徴②	20	アメリカにおけるテレビと選挙
6	日本におけるテレビ報道の特徴③	21	アメリカにおけるテレビと選挙CM
7	テレビと放送法	22	ワイドショーとジャーナリズム①
8	テレビとBPO①	23	ワイドショーとジャーナリズム②
9	テレビとBPO②	24	ケーススタディ①
10	ネット時代のテレビ	25	ケーススタディ②
11	テレビ考査の仕組み①	26	ケーススタディ③
12	テレビ考査の仕組み②	27	ケーススタディ④
13	テレビと視聴率①	28	ケーススタディ⑤
14	テレビと視聴率②	29	ケーススタディ⑥
15	前期のまとめ	30	まとめ

科目名	国際コミュニケーション論特殊講義	担当者	鈴木 雄雅	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本講義はマス・メディアを介した国際間の情報流通の諸問題を手がかりにして、国際間のコミュニケーションの諸問題を考える。異なる政治経済体制国々、歴史や文化を異にする国々のなかで南北問題や開発問題など、さまざまな局面にみられる国際間のコミュニケーションの問題を扱う。そのなかで、国際間のコミュニケーションのあり方を軸に、国際報道、マス・メディアのあり方、マス・メディアへの接し方を学ぶ場とする。		
到達目標	国際間におけるマス・メディア/メディアの役割（機能）を考察することができること。またジャーナリズムの果たすべき役割は何かを問うことができるようにする。		
履修条件	国際間のニュースの流れ、マス・メディアの現在に関心のある学生		
授業方法	テキスト、参考書をきちんと読んでおくことを前提に、講義形式で進める。クイズやインターネットを使ったリアクション、ビデオ映像、新聞記事などから、多面的にアクセスする。下記項目はほぼ2回ずつのテーマで、レジュメを配布する。		
準備学習	テキスト、配布資料などを読んでおくこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	20%	
教科書	武市英雄・原寿雄責任編集『グローバル社会とメディア』（ミネルヴァ書房、2003、3,500円）ISBN 4-623-03618-9		
参考書	講義中に紹介するが、H. H. フレデリック、武市英雄ほか（訳）『グローバル・コミュニケーション』（松柏社、1996、2,700円）は必読書 ISBN 4-88198-851-4		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	概念、定義(1) コミュニケーション、マス・コミュニケーション	17	ジャーナリズム機能と国際報道に期待される役割(1)
3	概念、定義(2) 国際コミュニケーション、グローバリゼーション	18	ジャーナリズム機能と国際報道に期待される役割(2)
4	グローバリゼーションとメディアの進展(1)	19	国際報道、政治報道の諸問題(1) 日米報道
5	グローバリゼーションとメディアの進展(2)	20	国際報道、政治報道の諸問題(2) 客観報道主義
6	グローバリゼーションとメディアの進展(3)	21	戦争とメディア：日露戦争
7	新世界情報コミュニケーション秩序 (NWICO) 論争(1)	22	プロパガンダ、戦争(紛争)と国際報道をめぐる諸問題(1) ベトナム戦争
8	新世界情報コミュニケーション秩序 (NWICO) 論争(2)	23	プロパガンダ、戦争(紛争)と国際報道をめぐる諸問題(2) 湾岸戦争、イラク戦争
9	冷戦崩壊と国境を越えるテレビ(1)	24	グローバル化するメディア文化の諸問題(1)
10	冷戦崩壊と国境を越えるテレビ(2)	25	グローバル化するメディア文化の諸問題(2)
11	マス・メディアからメガ・メディアの時代(1)	26	グローバル化するメディア文化の諸問題(3)
12	メガ・メディアからギガ・メディアの時代(2)	27	インターネット時代の国際報道(1)
13	文化摩擦、情報格差とメディア(1)	28	インターネット時代の国際報道(2)
14	文化摩擦、情報格差とメディア(2)	29	インターネット時代の国際報道(3)
15	総 括	30	総 括

科目名	ジャーナリズム史(外国)特殊講義	担当者	別府 三奈子	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	世界史を背景として、ジャーナリズムの担い手たちの表現手法、規範、思想について議論を重ね、ジャーナリズムに対する理解を深める。特に、世界規模で展開された戦争の数々や、社会的な大きな変動期におけるジャーナリズムの機能を具体的な事例として分析しながら、ジャーナリズムの規範と表現について学ぶ。		
到達目標	英語圏のジャーナリズムの変遷をたどり、ジャーナリズムの特性を理解する。ジャーナリズム・プロフェッションの立場から、ジャーナリズムの送り手の作法について思索を重ねる。		
履修条件	学部の専門科目「ジャーナリズム史(外国)」などの授業を履修済みであることが望ましい。		
授業方法	扱う事例毎に、受講生は事前によりサーチしてレジュメによる発表を行う。ジャーナリズムの通史におけるその事例の意味について、教員が概説し、理解すべきテーマを提示する。出席者で討論する。		
準備学習	扱う事例について、事前によりサーチしてレジュメを用意する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	毎回のレジュメ準備と発表内容、討論の深まりから総合評価する。
	平常評価	100%	
教科書	ハンドアウト資料集や、授業中に提示する各種歴史史料を使用する。		
参考書	別府三奈子著『アジアでどんな戦争があったのか—戦跡をたどる旅』めこん、2006他		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	オリエンテーション、アンケート	16	20世紀と戦争とジャーナリズム
2	戦争とメディア	17	愛国心とジャーナリズム —米西戦争のイラスト
3	ジャーナリズム史における活字	18	商業主義とジャーナリズム —死刑囚を撮る
4	ジャーナリズム史における写真	19	第一次世界大戦 —戦時広報
5	ジャーナリズム史における映像	20	第二次世界大戦 —プロパガンダ
6	ジャーナリズムの黎明(1) —クリミア戦争	21	朝鮮戦争 —冷戦下のジャーナリズム(1)
7	ジャーナリズムの黎明(2) —南北戦争	22	『LIFE』再考
8	ジャーナリズムの黎明(3) —日露戦争	23	マグナムの伝えた20世紀
9	記録と記憶の問題	24	ベトナム戦争 —冷戦下のジャーナリズム(2)
10	アレクザンダー・ガードナー —リンカーン暗殺の記録	25	反戦運動とジャーナリズム
11	ジェイコブ・リース —ニューヨーク貧民窟の顕在化	26	米国民権運動とジャーナリズム
12	ルイス・ハイン —児童労働搾取構造の顕在化	27	テレビとジャーナリズム
13	社会改良主義とジャーナリズム(1)	28	ネットとジャーナリズム
14	社会改良主義とジャーナリズム(2)	29	再び、記録と記憶の問題
15	19世紀までのジャーナリズム史まとめ	30	ジャーナリズム・プロフェッション論への回帰

科目名	ジャーナリズム史(日本)特殊講義	担当者	黒川 貢三郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	現代世界において、日本は世界で最も「言論の自由」が保障されている国家であるといわれている。しかし、それは多くの先人たちの血と汗によって獲得してきたものである。本講義では、近代日本の政治史と新聞史をベースにして、幕末維新から昭和20年に至る間に活躍してきた優れたジャーナリストたちの軌跡を辿ることによって、日本のジャーナリズムの歴史を再考して試みることにしたい。		
到達目標	それぞれの時代において、ジャーナリストたちは、どのように権力と立ち向かったかについて考察し、そこからあるべきジャーナリストの姿勢を理解することを望む。		
履修条件	特になし。		
授業方法	講義形式で行う。		
準備学習	幕末以降の政治・社会史を理解しておくことを望む。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	0%	
	平常評価	30%	
教科書	特に指定しない。		
参考書	黒川貢三郎ほか『近代日本政治史』南窓社		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	日清・日露戦争と新聞
2	ジャーナリストとは	17	日清・日露戦争期のジャーナリスト①
3	幕末期の新聞	18	日清・日露戦争期のジャーナリスト②
4	幕末期のジャーナリスト①	19	反体制運動と新聞
5	幕末期のジャーナリスト②	20	反体制のジャーナリスト
6	維新期の新聞	21	大正デモクラシーと新聞
7	維新期のジャーナリスト①	22	大正デモクラシー期のジャーナリスト①
8	維新期のジャーナリスト②	23	大正デモクラシー期のジャーナリスト②
9	政党機関紙時代の新聞	24	軍閥の台頭と新聞
10	政党機関紙時代のジャーナリスト①	25	反骨のジャーナリスト①
11	政党機関紙時代のジャーナリスト②	26	反骨のジャーナリスト②
12	「小新聞」の登場	27	GHQの新聞政策
13	「小新聞」とジャーナリスト①	28	復興期の新聞
14	「小新聞」とジャーナリスト②	29	個人研究発表②
15	個人研究発表①	30	総括講義



科目名	ジャーナリズム史特殊研究	担当者	大井 眞二	部別	大学院新聞 学研究科	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	---------------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	近代社会という固有の空間に成立した社会制度としてのジャーナリズムを、社会との関係性において歴史的に考察する研究の、アプローチおよび方法論を身につけることを目的とする。主として、アメリカ史学の伝統に依拠するアプローチおよび方法論に基づき、諸学派の特徴を講述する。具体的には、革新主義、コンセンサス、修正主義の諸学派を扱い、併せてアメリカジャーナリズム史学の顕著な特徴としてジャーナリズム・スクールの史学を批判的に講述する。		
到達目標	①基本的な学術的な概念の批判的把握 ②歴史的考察の方法と限界の基本的理解		
履修条件	前期。後期を連続受講すること		
授業方法	教科書の批判的読解、個別的トピックの研究報告		
準備学習	毎週に課す課題の		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	
教科書	基本的には最新の英語文献を使うが、学生諸君の興味や関心を勘案して、相談の上決定する。		
参考書	『アメリカ報道史』(近刊)、武市英雄、大井眞二他訳、松柏社 その他、各講義の折に、適宜紹介する。		
オフィス アワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	はじめに：受講上の諸注意、教科書・参考文献紹介	16	
2	アメリカ史学の現状と問題点(1)諸学派の特徴	17	
3	アメリカ史学の現状と問題点(2)歴史観を巡る混乱	18	
4	アメリカ史学の諸学派批判(1)革新主義	19	
5	アメリカ史学の諸学派批判(2)革新主義の呪縛	20	
6	アメリカ史学の諸学派批判(3)コンセンサス	21	
7	アメリカ史学の諸学派批判(4)コンセンサスとマイノリティの等閑視	22	
8	アメリカ史学の諸学派批判(5)修正主義	23	
9	アメリカ史学の諸学派批判(6)修正主義の陥穽	24	
10	アメリカ史学とジャーナリズム史学(1)関係性	25	
11	アメリカ史学とジャーナリズム史学(2)ジャーナリズム史学とジャーナリズムスクール	26	
12	ジャーナリズム史学の伝統(1)実践者の理論：I・トーマスと「アメリカにおける印刷の歴史」	27	
13	ジャーナリズム史学の伝統(2)実践者の理論：F・ハドソンとペニー・プレス	28	
14	ジャーナリズム史学の伝統(3)ジャーナリズム・スクールの歴史学：J・M・リー	29	
15	ジャーナリズム史学の伝統(4)A・M・リーの社会的ジャーナリズム史	30	

科目名	ジャーナリズム制度(外国)特殊研究	担当者	山本 賢二	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	世界各国のジャーナリズムはそれぞれの国情が反映される。ここでいう国情とは権力の所在であり、それぞれその国家権力との関係の中でジャーナリズムが制度化される。本講義はロシア、イラン、朝鮮の三カ国を取り上げ、憲法における規定、人権観、自由観、指導者のジャーナリズム観からそれぞれ制度化されたジャーナリズムを概観し、国家主権とジャーナリズムを考える。		
到達目標	日本とは異なる価値観をもつロシア、イラン、朝鮮のジャーナリズム制度の現状を理解し、国家主権とジャーナリズムの関係について、より深い解析力を得ることを目指す。		
履修条件	特になし。		
授業方法	講義が中心になるが、NHKなどで放映された関連番組なども視聴し、問題意識を啓発し、授業を展開する。		
準備学習	ロシア、イラン、朝鮮に関する知識を得ておくこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	問題意識をもち、よく考え、授業に参加すること。この参加度を評価対象とする。
教科書	特に指定しないが、「世界人権宣言」は熟読しておくこと。。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス(「世界輿論」と国家主権)	16	
2	ロシアのジャーナリズム制度－憲法における規定	17	
3	ロシアの人権観	18	
4	ロシアの自由観	19	
5	ロシア指導者のジャーナリズム観	20	
6	イランのジャーナリズム制度－憲法における規定	21	
7	イランの人権観	22	
8	イランの自由観	23	
9	イラン指導者のジャーナリズム観	24	
10	朝鮮のジャーナリズム制度－憲法における規定	25	
11	朝鮮の人権観	26	
12	朝鮮の自由観	27	
13	朝鮮指導者のジャーナリズム観	28	
14	国境なき記者団の活動	29	
15	まとめ(話し合い「国家主権とジャーナリズム」)	30	

科目名	ジャーナリズム制度(日本)特殊研究	担当者	岩淵 美克	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	政治環境の変化は、メディアシステムの変化と密接に関係している。その意味では、政治環境の変化を語るためには、メディアシステムの変化を理解していなくてはならない。本講義では、日本のメディアシステムの中での、とりわけマス・メディアを対象として、そのジャーナリズム機能について考察することとする。主に55年体制以降の日本のジャーナリズムは、とりわけ政治の場における影響力を強めていく過程であった。		
到達目標	日本におけるジャーナリズム制度の現状を理解し、批判的な検討を加えられるだけの知識を習得することを目標とする。		
履修条件	特に条件は設けないが、当然のことながら、映像やインターネットのみならず、新聞、雑誌等の活字ジャーナリズムに触れることは、最低限必要となる。		
授業方法	講義形式で行う。		
準備学習	常日頃から、多様なジャーナリズムに触れることで、ジャーナリズムとは何であるのかを意識することが準備学習につながる。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	講義時の態度や授業内での対話などから、総合的に評価する。
教科書	得に指定しない。		
参考書	講義時に提示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	
2	55年体制とジャーナリズム① 新聞 I	17	
3	55年体制とジャーナリズム② 新聞 II	18	
4	55年体制とジャーナリズム③ テレビ I	19	
5	55年体制とジャーナリズム④ テレビ II	20	
6	55年体制とジャーナリズム⑤ テレビ III	21	
7	55年体制とジャーナリズム⑥ 雑誌	22	
8	55年体制とジャーナリズムの流れ	23	
9	連立政権とジャーナリズム① メディア政治	24	
10	連立政権とジャーナリズム② テレポリティクス	25	
11	連立政権とジャーナリズム③ ワイドショー政治	26	
12	メディアシステムの変容① ジャーナリズム	27	
13	メディアシステムの変容② テレビジャーナリズム	28	
14	メディアシステムの変容③ ネットジャーナリズム	29	
15	総括	30	

科目名	ジャーナリズム調査演習Ⅰ	担当者	黒川 貢三郎	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、新聞学研究所の共同研究に基づいて、具体的に実証研究を行うことによって、調査研究の企画、立案、運営を学ぶことを目的とする。平成23年度は、平成21年度から22年にかけて行った「メディア政治の影響－国会議員のメディア観」について調査・研究を行う。なお、「メディア調査演習」（福田充教授担当）と合同で演習を進めていくと思われる（未定）。最終的には、受講院生と協議して決定する。		
到達目標	調査研究の方法論の把握。企画・立案過程の理解。		
履修条件	議会制度・立法過程について一定の理解を望む。		
授業方法	講義とディスカッション形式とする。		
準備学習	最初の講義の際、指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	
2	プロジェクト研究の目的	17	
3	プロジェクト研究の意義	18	
4	プロジェクト研究の展開と予算	19	
5	方法論についての検討	20	
6	調査方法とサンプリング	21	
7	統計処理の方法	22	
8	統計処理の方法	23	
9	研究スケジュールと予想結果	24	
10	先行研究と評価	25	
11	先行研究と評価	26	
12	データ収集と整理	27	
13	データ収集と整理	28	
14	データデットの作成	29	
15	まとめ	30	

科目名	ジャーナリズム調査演習Ⅱ	担当者	黒川 貢三郎	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、新聞学研究所の共同研究に基づいて、具体的に実証研究を行うことによって、調査研究の企画、立案、運営を学ぶことを目的とする。Ⅰで行った調査データの分析を通じて、同研究の報告書の作成を行う。その際、研究結果等の報告をすることにより、プレゼンテーション技法についても学ぶことになる。なお、「メディア調査演習Ⅱ」（福田充教授担当）と合同で演習を進めていくと思われる（未定）。		
到達目標	調査研究報告書の作成。		
履修条件	「ジャーナリズム調査演習Ⅰ」の履修。		
授業方法	講義とディスカッション形式で行なう。		
準備学習	最初の講義の際、指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	
2	プロジェクトの目的と意義	17	
3	研究方法と結果の予測	18	
4	データ入力の方法	19	
5	データ入力の方法	20	
6	データ処理 : 単純集計	21	
7	データ処理 : クロス集計	22	
8	データ処理 : 多変量解析	23	
9	データ処理 : 多変量解析	24	
10	データの見方と集計結果の見方	25	
11	データの見方と集計結果の見方	26	
12	目的とデータの関係	27	
13	方法とデータの関係	28	
14	目的と結論	29	
15	まとめ	30	

科目名	ジャーナリズム調査演習Ⅲ	担当者	高橋 俊一	部別	大学院新聞 学研究科	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	---------------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、インターンシップを具体化するもので、メディアの現場で日々展開されるニュース取材や原稿の執筆、記事作成の知識を実践的に習得することをめざす。記者の基本的行動パターンを研究しつつ、テーマに応じた取材や原稿作りを試みる。同時に、ジャーナリズムの本質を見きわめ、現代的な記者のあり方をともに考えていく。		
到達目標	長く社会部記者を務めてきた講師の経験とノウハウと伝えながら、今日的な取材環境の激変にも対応できる実力への基盤づくりを図る。多様な進路選択を可能にし、専門分野への展開にも役立たせる。		
履修条件	とくにない。ニュースや社会に普通の関心を持っていただければいい。		
授業方法	講義とフィールドワーク、ディスカッション形式を軸に。必要に応じて各紙、各メディアの比較分析も組み合わせる。		
準備学習	とくに求めないが、ニュースを幅広く知っておくことが望ましい。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	50%	基礎知識の習得度を中心に。ニュースへの理解力、対応力も考慮する。
	平常評価	50%	取り組み方や意欲、ジャーナリスティックな感受性をきちんと評価する。発想の独自性も対象にした い。
教科書	特に指定しない。		
参考書	適時指定する。		
オフィス アワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	
2	報道とメディアの意義	17	
3	新聞および新聞報道の特質	18	
4	取材の基本と事前準備	19	
5	取材方法論と課題研究	20	
6	取材実践演習・フィールドワーク、事例研究	21	
7	取材実践演習・メモや資料の整理	22	
8	原稿執筆の基本	23	
9	ニュースと記事の構成・構造分析	24	
10	原稿執筆の実践：事件報道と人権について	25	
11	原稿執筆の実践：一般雑報と調査報道および調査原稿について	26	
12	時事問題のデータ収集とその整理	27	
13	時事問題の執筆演習と紙面研究	28	
14	時事問題のテーマ別研究と各紙面比較	29	
15	まとめ	30	

科目名	ジャーナリズム理論演習 I	担当者	大井 真二	部別	大学院新聞 学研究科	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	---------------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、主に比較ジャーナリズム関係の教授陣を中心に講義と受講生の報告に論評を加えることで、異なる領域の方法論やプレゼンテーション技法を学ぶためのものである。したがって、受講生の発表が中心となる。		
到達目標	①様々な方法論の特徴と問題点の基本的理解 ②プレゼンテーション技法の修得		
履修条件	メディア史/ジャーナリズム史特殊研究及び比較ジャーナリズム論特殊講義の履修		
授業方法	講義と受講生の報告。		
準備学習	課題報告の準備		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィス アワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	
2	比較ジャーナリズム・史研究の意義と方法	17	
3	比較ジャーナリズム研究の動向	18	
4	比較ジャーナリズム史研究の動向	19	
5	比較ジャーナリズム研究に関する報告と批評	20	
6	比較ジャーナリズム史研究に関する報告と批評	21	
7	比較ジャーナリズムに関する事例研究(東アジア)	22	
8	比較ジャーナリズム史に関する事例研究(東アジア)	23	
9	比較ジャーナリズムに関する事例研究(欧州)	24	
10	比較ジャーナリズム史に関する事例研究(欧州)	25	
11	比較ジャーナリズムに関する事例研究(北米)	26	
12	比較ジャーナリズム史に関する事例研究(北米)	27	
13	比較ジャーナリズム研究に関する報告と批評	28	
14	比較ジャーナリズム史に関する報告と批評	29	
15	まとめ	30	

科目名	ジャーナリズム理論演習Ⅱ	担当者	別府 三奈子	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、主にジャーナリズム史関係の具体的な事例について、受講生がリサーチとプレゼンテーションを行い、それに対して参加者全員でディスカッションを行う。この積み重ねの中から、狭義のジャーナリズム規範を形成している核心部分の構造について、理論的に把握していく。		
到達目標	ジャーナリズム理論の全体像と、その中でのプロフェッション論の特徴を理解する。ジャーナリズムの規範に関する研究方法論の広がりをつかむ。		
履修条件	ジャーナリズムの規範研究に関心があること。		
授業方法	扱う事例に関する概説、受講生の発表、討論。		
準備学習	授業で予定されている事例に関して、発表するためのレジュメを用意する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	ディスカッション型の授業なので、事前の準備とそのレジュメ、および、授業中のディスカッションの内容などを総合して判断する。
教科書	『ジャーナリズムの起源』別府三奈子著、世界思想社、2006		
参考書	『よくわかるメディアスタディーズ』伊藤守編著、ミネルヴァ書房、2009 方法論については、Karin Wahl-Jorgensen, Thomas Hanitzsch ed., The Handbook of Journalism Studies, 2009 等。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ジャーナリズム研究とは何か	16	
2	専門研究の方法論	17	
3	ジャーナリズム・プロフェッション論	18	
4	ジャーナリズム規範史に関する事例① 報告	19	
5	ジャーナリズム規範史に関する事例① 討論	20	
6	ジャーナリズム規範史に関する事例② 報告	21	
7	ジャーナリズム規範史に関する事例② 討論	22	
8	ジャーナリズム規範史に関する事例③ 報告	23	
9	ジャーナリズム規範史に関する事例③ 討論	24	
10	ジャーナリズム規範史に関する事例④ 報告	25	
11	ジャーナリズム規範史に関する事例④ 討論	26	
12	ジャーナリズム規範史に関する事例⑤ 報告	27	
13	ジャーナリズム規範史に関する事例⑤ 討論	28	
14	ジャーナリズム・プロフェッション論 再考	29	
15	まとめ	30	



科目名	ジャーナリズム理論特殊研究	担当者	小川 浩一	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	ジャーナリズムは近代社会におけるインフラストラクチャー構築に貢献する組織である。まず、近代社会の存立基盤である近代思想とその組成および制度的枠組みについて理解することから始める。この作業を通じて社会学の方法（認識論）を修得する。次に近代社会におけるジャーナリズムの意義を日本を事例として考察する。		
到達目標	戦後日本の近代化の達成に重要な機能を果たすことを自らの使命とし、社会に対しても公言してきた勝治および放送メディアはジャーナリズムとして決して満足のできる誇るべき貢献をしてこなかったことを明らかにする。		
履修条件	社会学の知識を習得していることが望ましい。合わせて社会心理学と政治学の知識も習得していることが望ましい。日本近現代史の基本知識を蓄積していることは必須要件である。		
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部分を報告した上で課題を提起する方法をとる。毎回レジュメを配布すること。発表者以外の全員が読了していることが前提である。事前の準備なしに討論に参加しないこと。		
準備学習	日本近現代史、および戦後日本社会の変動について、新聞、雑誌の指定箇所を読了し、理解しておくこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	基本的に授業内での文献解題と報告、課題レポートの結果を勘案する。
教科書	富永健一『日本の近代化と社会変動』講談社学術文庫、マクネア『ジャーナリズムの社会学』リベルタ出版		
参考書	授業時に指示する		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	西欧近代とはいかなる時代か	16	
2	近代の要因；精神，社会，政治，文化	17	
3	日本の近代化；戦前	18	
4	戦後日本の近代化；産業化とアメリカ化	19	
5	戦後日本の近代化；戦後改革	20	
6	戦後日本の近代化；平準化	21	
7	現代社会の状況；階層間格差	22	
8	ジャーナリズムとは何か	23	
9	ジャーナリズムの社会的位置づけ	24	
10	日本におけるジャーナリズムの歴史	25	
11	ジャーナリズムとマス・コミュニケーション	26	
12	ジャーナリズムの社会学	27	
13	ポピュリズムと劇場型政治	28	
14	ジャーナリズムと社会制度	29	
15	日本の近代化とジャーナリズム	30	

科目名	政治コミュニケーション論特殊講義	担当者	大石 裕	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本講義は、政治コミュニケーションに関する理論と分析について検討する。その際の基本的な視座は、コミュニケーションと言う社会過程を権力現象として読み解くことである。講義のキーワード（概念）は、権力（影響力）、国家、コミュニケーション、世論そして政策過程である。これら概念に基づいて、政治、社会問題、社会運動などを事例として研究を進めることとしたい。本講義で依拠する主要なアプローチは、ジャーナリズム論（特にニュースバリュー論）および言説分析である		
到達目標	別途指示する。		
履修条件	特になし。		
授業方法	講義形式で行う。		
準備学習	別途指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	
教科書	大石裕 『ジャーナリズムとメディア言説』 勁草書房		
参考書	大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社、D.マクウェール『マス・コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	オリエンテーション	16	客観報道とニュースバリュー①
2	拡大する「政治」と「ジャーナリズム」①	17	客観報道とニュースバリュー②
3	拡大する「政治」と「ジャーナリズム」②	18	客観報道とニュースバリュー③
4	拡大する「政治」と「ジャーナリズム」③	19	ニュースの言説分析①
5	日本のジャーナリズム論の現代的課題①	20	ニュースの言説分析②
6	日本のジャーナリズム論の現代的課題②	21	ニュースの言説分析③ 事例研究
7	日本のジャーナリズム論の現代的課題③	22	ニュースの言説分析④ 事例研究
8	日本のジャーナリズム論の現代的課題④	23	ニュースの言説分析⑤ 事例研究
9	アジェンダ設定と「社会的現実」①	24	集合的記憶とマスメディア①
10	アジェンダ設定と「社会的現実」②	25	集合的記憶とマスメディア②
11	アジェンダ設定と「社会的現実」③	26	集合的記憶とマスメディア③
12	アジェンダ設定と「社会的現実の構築」①	27	メディアイベントの政治学①
13	アジェンダ設定と「社会的現実の構築」②	28	メディアイベントの政治学②
14	アジェンダ設定と「社会的現実の構築」③	29	メディアイベントの政治学③
15	アジェンダ設定と「社会的現実の構築」④	30	まとめ

科目名	政治ジャーナリズム論特殊講義	担当者	岩井 奉信	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本授業では、現代日本における政治とメディアの相互関係について、その実態について実証的に研究していく。特に「テレポリティックス」と言われるように、政治におけるテレビの役割が注目されているが、この点については、番組の「送り手」を中心に、重点的に分析、研究を行っていく。詳細な授業内容については、履修者と相談の上で、決めていきたい。		
到達目標	メディア、特に日本のテレビが、いかに現実の政治に影響を与えているのかについて、その実態を実証的手法を用いて分析、研究することを通して、理解することを到達目標とする。		
履修条件	履修にあたっては、単なるメディアやジャーナリズムへの関心だけでなく、現代日本政治の関心を持ち、一定の理解をしていることを求める。		
授業方法	関連文献の輪読及び履修者による研究発表を基本とする。必要に応じて、メディアの見学や関係者との懇談などを行うことがある。		
準備学習	現代日本政治について、日々、メディアがいかに報道しているかを、一定の問題意識を持って見聞きすることを求める。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	授業への出席状況、輪読や研究発表の内容などの状況を評価の対象とする。
	平常評価	100%	
教科書	蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一『メディアと政治』有斐閣 田勢康弘『政治ジャーナリズムの罪と罰』新潮社		
参考書	必要に応じて授業中に指示する		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	授業概要についての説明と履修者の関心領域の確認	16	テレポリティックスに関連する事例研究の計画
2	『メディアと政治』輪読による基礎理論の学習	17	テレポリティックスに関連する事例研究の問題意識の発表
3	『メディアと政治』輪読による分析モデルの学習	18	インデペンデント・リサーチと個別指導
4	『メディアと政治』輪読による政治的影響の学習	19	インデペンデント・リサーチと個別指導
5	『メディアと政治』輪読によるニュース作成の学習	20	インデペンデント・リサーチと個別指導
6	『メディアと政治』輪読による政治取材の学習	21	事例研究に関する中間報告
7	『メディアと政治』輪読による社論形成の学習	22	事例研究に関する中間報告
8	『メディアと政治』輪読によるテレビに関する学習	23	インデペンデント・リサーチと個別指導
9	『メディアと政治』輪読によるテレビ政治の学習	24	インデペンデント・リサーチと個別指導
10	テレビ政治関連番組制作過程に関する分析研究	25	インデペンデント・リサーチと個別指導
11	テレビ政治関連番組制作過程に関する分析研究	26	事例研究の報告
12	テレビ政治関連番組制作過程に関する分析研究	27	事例研究の報告
13	テレビ政治関連番組制作過程に関する分析研究	28	政治とメディアに関するまとめの議論
14	テレビ政治関連番組の制作過程に関する分析研究	29	政治とメディアに関するまとめの議論
15	前期まとめの議論	30	政治とメディアに関するまとめの議論

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	岩淵 美克	期間	通年	回数	60	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	修士論文を含め、広く論文作成のためのアプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、作業仮説の構築、検証、分析等、論文が完成するまでの一連の作業について指導する。その際、作業工程表を作成させ、節目節目に立ち止まり、作業の反省と修正を行いながら、論文完成までの工程を明示することを目指す。		
到達目標	2年修了時に、学術論文として高い評価を得られるような修士論文を作成すること。		
履修条件	特に指定しないが、政治とりわけ日本の政治や世論、メディアに高い関心の持つ学生の履修を希望する。		
授業方法	講義形式で行う。		
準備学習	特に必要とはしないが、常に日本の政治や世論の動向に敏感であってほしい。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	ただし、修士論文をもって評価とする。
教科書	特に指定しない。		
参考書	講義時に提示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	データ分析の方法①
2	個人発表	17	データ分析の方法②
3	先行研究のレビュー①	18	データ分析の方法③
4	先行研究のレビュー②	19	データ処理①
5	先行研究のレビュー③	20	データ処理②
6	先行研究のレビュー④	21	データ処理③
7	方法論①	22	分析結果の提示①
8	方法論②	23	分析結果の提示②
9	方法論③	24	分析結果の考察①
10	方法論④	25	分析結果の考察②
11	データ収集と整理①	26	分析結果の考察③
12	データ収集と整理②	27	データの補完とデータ処理
13	データ収集と整理③	28	総合的な考察；結論
14	データのまとめと予測	29	最終報告
15	中間報告	30	報告書・論文の提出

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	大井 眞二	期間	通年	回数	60	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	学位論文作成のため、第1に、アプローチ、テーマ設定、先行研究の批判的レビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を指導すること、第2に、テーマに関わる資料の収集だけでなく、資料の批判、文献の読み込み方、関連する諸理論の整理を初めとする、学術論文作成の技法を具体的に指導することを目的とする。		
到達目標	①学位論文の課題の決定 ②学位論文の執筆を可能ならしめる研究体制の整備		
履修条件	ジャーナリズム史特殊研究・メディア史特殊研究の履修		
授業方法	具体的な研究テーマを掘り下げる学位論文作成のため、きめ細かな個別指導を中心とする。		
準備学習	指定文献の報告準備		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	
教科書	特に使用しない。		
参考書	各授業の折に適宜紹介する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	授業上の諸注意、授業概要、文献紹介	16	メディアと社会の統合的アプローチ①：分化理論
2	研究の手続き①：論文叙述の方法概説	17	メディアと社会の統合的アプローチ②システム論
3	研究の手続き②：実証的論文叙述の方法	18	リサーチフロンティア②
4	研究の手続き③：思弁的論文叙述の方法	19	論文構成報告と個別指導
5	研究の手続き④：資（史）料探索の方法	20	研究方法論①：思弁的研究の方法と特徴
6	研究の手続き⑤：資（史）料批判の方法	21	研究方法論②：文献的研究の方法と特徴
7	研究の手続き⑥：引用と注の目的と方法	22	研究方法論③：歴史実証の方法と特徴
8	リサーチフロンティア①	23	研究方法論④：社会学的実証の方法と特徴
9	論文テーマ報告と個別指導	24	研究方法論⑤法学・政治学的実証の方法と特徴
10	メディアと社会の理論①理論の歴史の概要	25	研究方法論⑥：文化的実証の方法と特徴
11	メディアと社会の理論②理論の現状	26	研究発表と討論①
12	メディア中心のアプローチ①：技術論	27	研究発表と討論②
13	メディア中心のアプローチ②：制度論	28	研究発表と個別指導①
14	社会中心のアプローチ①：政治経済論	29	研究発表と個別指導②
15	社会中心のアプローチ②：ヘゲモニー論	30	研究発表と個別指導③

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	小川 浩一	期間	通年	回数	60	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	学位論文作成のため、アプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を指導する。その際、テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。また論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う		
到達目標	修士論文を完成すること。社会科学における修士論文は感想文ではないことが前提である。		
履修条件	社会学、社会心理学、政治学の基礎知識を修得済みの者。		
授業方法	講義と演習を併用した形式で行う。履修者の学問関心を優先し、当該関心を社会科学における論文とする方途を指示する。科学性と論理性を常に問う。		
準備学習	指定した文献、資料は事前に解題を終えることは必須条件である。科学論文とは何かを事前に認識すること。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	平生の発表内容と最終論文の成果内容
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	論文指導
2	研究目的の設定	17	論文指導
3	方法論の検討	18	論文指導
4	先行研究の検討	19	論文指導
5	先行研究の検討	20	論文指導
6	仮説ないしは問題意識の再確認	21	論文指導
7	研究テーマの決定	22	中間報告 3
8	論文概要の中間報告 1	23	論文指導
9	論文指導	24	論文指導
10	論文指導	25	論文指導
11	論文指導	26	論文指導
12	論文指導	27	論文指導
13	論文指導	28	論文指導
14	論文指導	29	論文指導
15	中間報告 2	30	論文の完成、報告

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	回数	60	単位数	4
-----	------------	-----	--------	----	----	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	学位論文作成のため、アプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を指導する。その際、テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。また論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う		
到達目標	修士論文の完成		
履修条件	特になし		
授業方法	演習形式で行う。		
準備学習	毎回必要な発表のための準備		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	修士論文の完成度100%。
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	論文指導 : 方法論
2	研究目的の設定	17	論文指導 : 方法論
3	方法論の検討	18	論文指導 : 分析
4	先行研究の検討	19	論文指導 : 分析
5	先行研究の検討	20	論文指導 : 分析
6	仮説ないしは問題意識の再確認	21	論文指導 : 分析
7	研究テーマの決定	22	中間報告 3
8	論文概要の中間報告 1	23	論文指導 : 分析結果の検討
9	論文指導 : 先行研究の読み方	24	論文指導 : 分析結果の検討
10	論文指導 : 先行研究の読み方	25	論文指導 : 分析結果の修正
11	論文指導 : 先行研究の読み方	26	論文指導 : 分析結果の修正
12	論文指導 : 仮説の検討	27	論文指導 : 表記方法の確認
13	論文指導 : 仮説の表現	28	論文指導 : 表記方法の確認
14	論文指導 : 仮説の設定	29	論文指導 : 総括
15	中間報告 2	30	論文の完成、報告

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	福田 充	期間	通年	回数	60	単位数	4
-----	------------	-----	------	----	----	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	修士論文を含めたさまざまな論文作成のためのアプローチを学ぶために、研究計画に沿って、テーマ設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、調査の実施、データ分析等、論文が完成するまでの一連の作業について指導する。とくにメディアの社会的効果、影響に関する実証研究に焦点をあてる。研究における作業工程表を作成し、定期的に研究成果の中間報告を行いながら、論文完成までの工程を自主管理する能力の構築を目指す。		
到達目標	別途指示する。		
履修条件	特になし。		
授業方法	講義形式を中心に、参加者による研究報告、共同討議を交えながら授業を行う。		
準備学習	別途指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	授業への参加度を重視する。
教科書	福田充(2010)『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』慶應義塾大学出版会。		
参考書	福田充(2010)『リスク・コミュニケーションとメディア』北樹出版、福田充(2009)『メディアとテロリズム』新潮新書。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	調査データの管理と編集作業
2	個人発表	17	データ処理①： 変数設定と編集
3	研究テーマの設定	18	データ処理②： 尺度構成と編集
4	問題意識と研究方法	19	データ分析①： 記述統計
5	先行研究の収集と使用	20	データ分析②： 多変量解析
6	先行研究のレビュー①	21	データ分析③： 多変量解析
7	先行研究のレビュー②	22	分析結果の考察
8	研究対象の確定	23	第二次中間報告
9	仮説の提示： 理論仮説と作業仮説	24	論文におけるデータの使用と解釈
10	調査実施方法①： 内容分析	25	論文の構成と目次の作成
11	調査実施方法②： 質問紙調査	26	修正報告
12	調査実施方法③： ヒアリング調査、フィールドワーク	27	データの修正と再分析
13	調査実施方法④： 実験、観察法	28	仮説の検証結果の検討
14	調査票の作成と実査	29	最終報告
15	中間報告	30	報告書・論文の提出



科目名	専門演習(研究指導)	担当者	別府 三奈子	期間	通年	回数	60	単位数	4
-----	------------	-----	--------	----	----	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	受講生各自の問題意識から立ち上がる研究テーマに沿いながら、研究を深めていくための助言を行う。具体的には、テーマの設定、先行研究のレビュー、研究方法論の選択、研究の遂行、分析内容、論文構成、論文記述などに関して、その方法や内容について助言する。論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う。								
到達目標	博士課程でのさらなる探究を念頭におき、アカデミズムの作法にかなった修士論文の作成をする。								
履修条件	米国のジャーナリズム思想や米国のジャーナリズム規範の変遷と現状についての専門研究を、自らの学位論文のテーマとする者で、英語の学術論文を読解する力があること。								
授業方法	学生による研究過程の報告と、その検討のためのディスカッション。								
準備学習	毎回、発表のためのレジュメを用意すること。								
成績評価	種別	割合	評価方法						
	筆記試験	%							
	平常評価	40%	学位論文に関するレジュメ報告						
教科書	別府三奈子著『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006他								
参考書	適宜指示する。								
オフィスアワー									

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	論文指導 : 検証結果の報告
2	研究目的の設定	17	論文指導 : 検証結果の報告
3	方法論の検討	18	論文指導 : 検証結果の報告
4	先行研究の検討	19	論文指導 : 検証結果の検討
5	先行研究の検討	20	論文指導 : 検証結果の修正
6	仮説ないしは問題意識の再確認	21	論文指導 : 検証結果の報告
7	研究テーマの決定	22	中間報告 3
8	論文概要の中間報告 1	23	論文指導 : 結論の検討
9	論文指導 : 先行研究	24	論文指導 : 結論の検討
10	論文指導 : 先行研究	25	論文指導 : 結論の報告
11	論文指導 : 先行研究	26	論文指導 : 結論の修正
12	論文指導 : 作業仮説の修正	27	論文指導 : 論文構成の検討
13	論文指導 : 検証方法の検討	28	論文指導 : 研究論文作法の確認
14	論文指導 : 検証方法の検討	29	論文指導 : 全体調整
15	中間報告 2	30	論文の完成、報告

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	山本 賢二	期間	通年	回数	60	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	中国(台湾、華人圏を含む)、日中関係、中米関係などに結び付け、メディア・ジャーナリズム・コミュニケーション・宣伝・広報・インテリジェンス・情報などをキーワードにし、論文テーマを設定する。例えば次のようなテーマが考えられる。中国のメディアコントロール、中国のジャーナリズムの特色、日中のコミュニケーションギャップ、中国の対外宣伝、中日米広報外交比較、「情報にたいする権利」など。		
到達目標	研究テーマについて、修士論文として完成させる。		
履修条件	特になし。		
授業方法	研究の進捗に合わせて報告させ、随時研究方法・方向を修正し、論文完成に努める。		
準備学習	研究テーマに関する先行研究を調べておくこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	指導を受ける際は、常に前回の課題を解決しておくこと。課題解決の取り組み方を評価対象にする。
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	論文指導
2	研究目的の設定	17	論文指導
3	方法論の検討	18	論文指導
4	先行研究の検討	19	論文指導
5	先行研究の検討	20	論文指導
6	仮説ないしは問題意識の再確認	21	論文指導
7	研究テーマの決定	22	中間報告 3
8	論文概要の中間報告 1	23	論文指導
9	論文指導	24	論文指導
10	論文指導	25	論文指導
11	論文指導	26	論文指導
12	論文指導	27	論文指導
13	論文指導	28	論文指導
14	論文指導	29	論文指導
15	中間報告(院生合同研究発表会) 2	30	(一年次) 中間報告(院生合同研究発表会) 4 (二年次) 論文の完成、報告

科目名	中国メディア論特殊講義	担当者	山本 賢二	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	「武」（武力）と「文」（宣伝）によって中国国民党から政権を奪取した中国共産党にとっては、メディアは中国を経営するための耳目と喉舌である。耳目とは情報の収集を指し、喉舌とは情報の提供を意味している。本講義は中国共産党のメディアコントロールの実態を検証するものであるが、受講者には中国という国情を同時並行的に理解するよう求めたい。		
到達目標	中国共産党のメディアコントロールについて理解する。		
履修条件	特になし。		
授業方法	教科書を熟読していることを前提とし、担当者(山本)の研究論文を一週一編読み、その内容について話し合いながら講義を進める。		
準備学習	担当者(山本)の研究論文を熟読してくること。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	授業中における話し合いに積極的に参与する。これを平常評価とする。
教科書	何清漣著 中川友訳『中国の嘘—恐るべきメディア・コントロールの実態』（扶桑社）		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス(情報主権)	16	一国両制と新聞の自由
2	中国における「中国共産党の指導」	17	席揚事件
3	中国共産党の組織原則	18	9. 1 1 事件と中国メディア
4	内部と外部	19	中国の国際コミュニケーション戦略
5	「人民に奉仕する」スローガンの浮沈	20	中国にとっての情報としての知財
6	中国の情報文化	21	「新聞法」について
7	メディアとしての太極拳	22	中華人民共和国情報公開条例
8	中国の「四大自由」	23	新疆「7.5」事件とインターネット規制
9	「真理の基準」キャンペーン	24	林語堂のジャーナリズム論
10	精神汚染除去キャンペーン	25	天皇逝去報道
11	民主化運動と言論の自由	26	東芝ノートパソコン事件報道
12	世界経済導報事件	27	西安留学生寸劇事件報道
13	胡績偉ジャーナリズム論（1）生成	28	日中の言論空間
14	胡績偉ジャーナリズム論（2）位相	29	日中相互理解とメディアリテラシー
15	胡績偉ジャーナリズム論（3）背景—民主論	30	話し合い—メディアと日中相互理解

科目名	比較コミュニケーション政策論特殊講義	担当者	本多 周爾	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本講義では、開発論、発展論を手がかりにコミュニケーション政策を議論し、さらにそこに横たわる諸課題について分析する。前期は開発コミュニケーション論を中心にコミュニケーション政策論を考察し、後期は東・東南アジアにおける実際のコミュニケーション政策について検討する。これらの作業を通して、理論と実践に架橋する視座の修得を目的とする。		
到達目標	コミュニケーション政策論に関する専門的な基礎知識を修得し、開発とコミュニケーション、情報化の政策を比較する理論と視点を身につけ、この分野における課題に問題発見的にアプローチする能力を養うことを目標とする。		
履修条件	特になし。		
授業方法	講義とテキスト輪読の形式で行う。		
準備学習	各テーマに関する部分について、教科書、参考書を事前に講読しておくこと。報告の発表に際しては事前に十全に準備しておくこと。報告者にあらかじめ報告内容のレジメを準備してもらうので、受講者はそれを事前に講読し、質問と意見を準備しておくこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	発表では事前にはっきり準備した内容を報告すること。質疑応答においても積極的に意見等を発言するように。
教科書	本多周爾『発展と開発のコミュニケーション政策』武蔵野大学出版会、2007年。 本多周爾『台湾 メディア・政治・アイデンティティ』春風社、2010年。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	はじめに	16	後期のガイダンス
2	前期のガイダンス	17	コミュニケーション政策の実情
3	比較コミュニケーション政策論の視座	18	東アジア・東南アジアのコミュニケーション政策
4	発展論、開発論、統合論	19	インドネシアのコミュニケーション政策(1)
5	コミュニケーション政策論	20	インドネシアのコミュニケーション政策(2)
6	国家建設におけるコミュニケーションの役割と機能	21	マレーシアのコミュニケーション政策(1)
7	国民統合におけるコミュニケーションの役割と機能	22	マレーシアのコミュニケーション政策(2)
8	国家建設におけるコミュニケーション政策	23	タイのコミュニケーション政策(1)
9	国民統合におけるコミュニケーション政策	24	タイのコミュニケーション政策(2)
10	開発コミュニケーション論(1)	25	ベトナムのコミュニケーション政策
11	開発コミュニケーション論(2)	26	台湾のコミュニケーション政策(1)
12	開発におけるコミュニケーションの役割と機能	27	台湾のコミュニケーション政策(2)
13	開発におけるコミュニケーション政策	28	台湾のコミュニケーション政策(3)
14	コミュニケーション政策における情報化	29	後期の小括
15	前期の小括	30	総括

科目名	比較ジャーナリズム論特殊講義	担当者	大井 眞二	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	比較の視座によって初めて、妥当性をもつ一般化を導き出すことができる、社会におけるジャーナリズムの役割概念、行為規範、ジャーナリズムシステムに関する比較研究を批判的に読み解き、視野狭窄的になりがちなジャーナリズム研究の視座を超越する比較研究の枠組みを提供することを目的とする。		
到達目標	①比較ジャーナリズム研究の方法論の基本的理解 ②交差国家的、交差文化的研究の特徴と問題点の把握		
履修条件	特殊研究の履修		
授業方法	テキスト読解を中心に、個別的な研究事例の批判的討論		
準備学習	指定文献の報告準備		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	
教科書	Hallin & Mancini, Comparing media systems, Cambridge University Press ; Esser & Pfetsch, Comparing Political Communication, Cambridge University Press.		
参考書	各講義の折に適宜紹介する		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	授業上の諸注意、授業概要、文献紹介など	16	政治コミュニケーションシステムの近(現)代化
2	比較ジャーナリズム研究の視座：比較とは	17	政治コミュニケーションシステムのグローバル化
3	J. Alexanderの比較ジャーナリズムシステム論(1)	18	政治コミュニケーションシステムの同質化
4	J. Alexanderの比較ジャーナリズムシステム論(2)	19	比較新聞学の視座：日本の比較研究
5	N. Luhmannのジャーナリズムシステム論(1) 社会論	20	小山栄三の『比較新聞学』とシステム論
6	N. Luhmannのジャーナリズムシステム論(2) ジャーナリズム論	21	F. Siebertらの『プレス4理論』再訪
7	ジャーナリズムシステム論批判	22	『4理論』批判
8	システム論としての分化理論批判	23	Hutchins委員会の『自由にして責任あるメディア』
9	p. Bourdieuのジャーナリズム・フィールド理論	24	リベラルジャーナリズム論批判
10	文化資本とジャーナリズムのフィールド	25	比較ジャーナリズム研究の新たな視座：ジャーナリズム文化
11	社会資本とジャーナリズムのフィールド	26	HallinとManciniの「比較メディアシステム論」
12	仏社会学センターのジャーナリズム・フィールド理論	27	分極的多元主義モデル
13	比較ジャーナリズム研究と比較政治コミュニケーション研究	28	民主的コーポラティズムモデル
14	J. BlumlerとM. Gurevitchの比較政治コミュニケーション研究の枠組み	29	リベラリズムモデル
15	比較政治コミュニケーション研究の問題点	30	ジャーナリズム・モデルの構築

科目名	文献研究(英)	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	ジャーナリズム・メディアの倫理の問題を考える場合、その普遍的な指針となるものがあるのか、という大きな問題にぶつかる。Cees J. Hamelinkは、国際的人権が、普遍的な道徳的指針に貢献すると考える。サイバースペースにおける倫理の問題と、国際的人権に関するHamelinkの考え方を通して、ジャーナリズム・メディアの倫理における普遍性の問題を解き明かしていきたい。		
到達目標	学術書の内容を正しく把握する力をつける。		
履修条件	特になし		
授業方法	前期は、解説をつけながら輪読をしていく。後期は各章別に論点を抽出し、それについて徹底的に討論していきたい。		
準備学習	毎回必要ところに目を通してくる。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	自らの担当箇所の読解力75%。質問等25%。
教科書	Cees J. Hamelink, The Ethics of Cyberspace.		
参考書	授業時に適宜に紹介する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	1 Prometheus in CyberSpaceの論点指摘
2	1 Prometheus in CyberSpace その①	17	1 Prometheus in CyberSpaceに関する討論
3	1 Prometheus in CyberSpace その②	18	2 Morality in CyberSpaceの論点指摘
4	2 Morality in CyberSpace その①	19	2 Morality in CyberSpaceに関する討論
5	2 Morality in CyberSpace その②	20	3 The Decent Society and CyberSpaceの論点指摘
6	3 The Decent Society and CyberSpace その①	21	3 The Decent Society and CyberSpaceに関する討論
7	3 The Decent Society and CyberSpace その②	22	4 Equal Entitlement in CyberSpaceの論点指摘
8	4 Equal Entitlement in CyberSpace その①	23	4 Equal Entitlement in CyberSpaceに関する討論
9	4 Equal Entitlement in CyberSpace その②	24	5 Digital Risks and Security in CyberSpaceの論点指摘
10	5 Digital Risks and Security in CyberSpace その①	25	5 Digital Risks and Security in CyberSpaceに関する討論
11	5 Digital Risks and Security in CyberSpace その②	26	6 Free Speech and Knowledge in CyberSpaceの論点指摘
12	6 Free Speech and Knowledge in CyberSpace その①	27	6 Free Speech and Knowledge in CyberSpaceに関する討論
13	6 Free Speech and Knowledge in CyberSpace その②	28	7 The Democratization of Technology Choiceの論点指摘
14	7 The Democratization of Technology Choice その①	29	7 The Democratization of Technology Choiceに関する討論
15	7 The Democratization of Technology Choice その②	30	総括

科目名	文献研究(英)	担当者	別府 三奈子	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	英語の文献を使い、欧米におけるジャーナリズム・プロフェッション論の考え方を理解する。		
到達目標	研究のための文献調査に必要な英語力のブラッシュアップとスピードアップ。		
履修条件	基礎的な英語の研究書を読みこなす力があること。 英語圏のインターネットをリサーチする英語力があること。		
授業方法	米国のジャーナリズムに関する研究書を素材として、その意味内容を確認するとともに、その主張について討論を行う。		
準備学習	毎回、テキストの予定範囲を全訳し、それをレジュメにまとめた上で、検討すべき課題について口頭発表するための準備を行う。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	60%	期末に、授業で扱ってきたテーマに関する学術論文を素材として、筆記試験を行う。
	平常評価	40%	毎回提出されるレジュメに関し、その準備状況や検討すべき課題への思索の深さを評価する。
教科書	Everette E. Dennis & John C. Merrill, Media Debates, Great Issues for the Digital Age, 2005		
参考書	ハンドアウト資料を随時配布。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	オリエンテーション、ミニテスト	16	Chapter 12: Journalistic Objectivity
2	Chapter 1: Freedom of the Press	17	Challenge
3	Challenge	18	Response
4	Response	19	ディベート
5	ディベート	20	Chapter 5: The Right to Know
6	Chapter 2: Media-Government Relationship	21	Challenge
7	Challenge	22	Response
8	Response	23	ディベート
9	ディベート	24	Case Study (2)
10	Chapter 18: Journalism is a Profession	25	事例発表 (1)
11	Challenge	26	事例発表 (2)
12	Response	27	事例発表 (3)
13	ディベート	28	事例発表 (4)
14	Case Study (1)	29	事例発表 (5)
15	ジャーナリズム・プロフェッション論まとめ (1)	30	ジャーナリズム・プロフェッション論まとめ (2)

科目名	文献研究(中)	担当者	山本 賢二	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	インターネットに流れる言論・情報を統制する中国共産党とより多くの情報を求め、より自由な言論の場を得たいとする人々との間には時として摩擦が生じる。本文献研究では、インターネットを社会管理に活用しようとする中国共産党の志向を理解する上で有益な文献を主に、これに反対する立場の文献を副にし、輪読日訳することを通じて、中国におけるインターネットの問題を考える。		
到達目標	中国における社会管理とインターネットの関係を理解する。		
履修条件	特になし。		
授業方法	関係論文を輪読、日訳し、その内容について話し合う。		
準備学習	正確な日本語になるよう日本語訳を十分推敲する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	出席しての輪読・日訳、さらには議論を評価対象とする。
教科書	中国における社会管理とインターネットに関する文献を教材として利用する。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス(管理社会と「1984年」)	16	大洪：中国网民族主义的察、分析—以中日、中关系象
2	胡锦涛在人民日报社考察工作的 (2008年6月20日)	17	同上
3	同上	18	同上
4	同上	19	同上
5	胡锦涛在省部主要干部社会管理及其新研班开班式上表重要 (2011年2月19日)	20	刘波：中共网民的封注定失 (2005年6月16日)
6	同上	21	同上
7	学：当代中国社会构与社会建 (2010年9月1日)	22	同上
8	同上	23	2010年1月13日 谷歌声明全文
9	同上	24	日内瓦互网自由宣言 (2010年3月9日)
10	同上	25	同上
11	任理：理性看待当前的社会公正 (2011年2月16日)	26	同上
12	同上	27	中国互网状况 (2010年06月08日)
13	同上	28	同上
14	同上	29	同上
15	話し合い(中国の社会)	30	話し合い(インターネット)



科目名	文献研究(独)	担当者	岩淵 美克	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	マス・コミュニケーション効果研究における世論形成に与えるメディアの影響を表したとされている、ノエレ＝ノイマンの『沈黙の螺旋理論』をテキストとして、世論形成に与えるメディアの影響について、総合的に考察していく。		
到達目標	輿論研究の概略を理解するとともに、ドイツ社会の状況を理解すること。		
履修条件	ドイツ語の十分な読解能力があることを条件とする。		
授業方法	文献の輪読形式で行なう。		
準備学習	テキストの予習はもちろんであるが、単なる読解ではなく、内容を理解することが重要である。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	予習状況などから総合的に評価する。
	平常評価	100%	
教科書	Elisabeth Noelle-Neumann "Die Schweige-Spirale" Piper.		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	Das Recht und die Offentliche Meinung
2	Die Schweige-Hypothese wird Aufgestellt	17	Offentliche Meinung bewirkt Integration
3	Prufung mit Demoskopischen Instrumentmen	18	Ketzer, Avantgardisten, Ausenseiter
4	Isolationsfurcht als Motiv	19	Das Stereotyp als Verkehrsmittel
5	Offentliche Meinung - was ist das?	20	Thematisierung als Leistung Offentlicher
6	Das Gesetz der Meinug : John Laocke	21	Das Journalistenprivileg
7	Regierung beruht auf Meinung	22	Offentliche Meinung hat zwei Quellen
8	Der Schopfer des Begriffs Meinung	23	Das Doppelte Meinungskilma
9	Offentliche Meinung als Tyrannei	24	Die Aritikulationsfunktion
10	Der Begriff soziale Kontrolle	25	Vox Populi - vox Dei
11	Das Chorheulen der Wolfe	26	日本における沈黙の螺旋理論研究
12	Offentliche Meinung	27	ドイツ世論と日本世論
13	Der Sturm auf die Bastille	28	メディア効果研究と沈黙の螺旋理論
14	Mode ist offentliche Meinung	29	世論研究の課題
15	Der Pranger	30	総括

科目名	文献研究(日)	担当者	小川 浩一	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	この授業は外国人留学生のためのものである。日本語でジャーナリズムおよび社会学の関連文献と論文を購読する。専門文献を多数読み解くことで、日本語に馴染むだけでなく社会科学における日本語表現を身に付けてもらい論文執筆の一助となることを希求する。		
到達目標	外国からの留学生諸君が日本語での修士論文を執筆可能となる水準に到達すること。		
履修条件	特に無いが、日常的に日本語の文献を読むこと。読んだものを纏めることが常に求められます。		
授業方法	日本語文献（論文、著書）を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。		
準備学習	話すことも書くことも、他人に、理解させ、できれば自分の意見に同意させることが目標の「説得」敵コミュニケーションであるという心構えを常に持っててください。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	平生の発表、課題レポートの成果。
教科書	前期；中馬清福『新聞は生き残れるか』岩波新書、後期；佐藤卓巳『テレビ的教養』NTT出版		
参考書	授業時に指示する		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	前期全体のガイダンス	16	後期のガイダンス
2	日本のマス・メディア状況・・・新聞	17	日本のマス・メディア状況・・・テレビ
3	日本における新聞の歴史・・・明治・大正期	18	日本における放送の歴史・・・大正末期
4	日本における新聞の歴史・・・戦前期	19	日本における放送の歴史・・・昭和戦中期
5	日本における新聞の歴史・・・戦後期	20	日本における放送の歴史・・・戦後期
6	日本の新聞と近代化・・・戦前期	21	ラジオと日本の近代化
7	日本の新聞と近代化・・・戦後期	22	テレビと日本の近代化
8	20世紀末以降の新聞の位置づけ	23	テレビジョン視聴の傾向・・・20世紀まで
9	ジャーナリズムとしての新聞とマス・メディアとしての新聞	24	テレビジョン視聴の動向・・・21世紀から
10	戦後日本の社会変動と新聞（1）・・・経済成長期	25	戦後日本の社会変動とテレビ（1）・・・経済成長期
11	戦後日本の社会変動と新聞（2）・・・総中流化期	26	戦後日本の社会変動とテレビ（2）・・・総中流化期
12	戦後日本の社会変動と新聞（3）・・・階層間格差固定化期	27	戦後日本の社会変動とテレビ（3）・・・階層間格差固定化期
13	情報習得手段の多様化と読者の変貌	28	メディア融合とテレビジョン
14	新聞を読むということ・・・新聞リテラシー	29	テレビを見るということ・・・テレビリテラシー
15	まとめ	30	まとめ

科目名	文献研究(仏)	担当者	伊藤 英一	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	フランス語は、ジャーナリズム・メディアを研究する上で、豊かな情報と幅広い視点をもたらしてくれるであろう。グローバルで多彩な世界の中にあっても、その独自性と高い精神性（ジャーナリストの矜持）等で異彩を放つフランス語の文献研究を通じて、フランス語能力のみでなく、ジャーナリズム・メディアに関する比較研究能力と歴史的洞察力を養って行きたい。		
到達目標	フランスのジャーナリズムの特性と、少数言語でありながらも世界のメディアをリードできるところに興味をもってもらう。		
履修条件	フランス語によるニュースを視覚的にも、聴覚的にも理解できる能力を有する、ないしは必要能力を体得しようとする強固な意志を有すること。		
授業方法	フランス、カナダ、ベルギーをはじめとした、フランス語圏で、ジャーナリストやメディアにかかわる人材養成に用いられているテキストの輪読に併せ、テレビ番組、新聞、ウェブ等を活用し、最先端の情報を活用しながらの研究を進める。		
準備学習	その都度、ご案内します。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	0%	
	平常評価	100%	講義中の皆さんとのコミュニケーションを重視し、授業への①寄与度と②参加度を各々30%の小計60%。講義中の、③小論文等の内容に40%を配分します。
教科書	Yves Agnès ; Manuel de journalisme : Ecrire pour le journal, Editions La Découverte, 2008.		
参考書	Armand Mattelart ; La mondialisation de la communication, Presses Universitaires de France - PUF, 2008.		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ジャーナリズム(le journalisme)の定義	16	ジャーナリストと情報
2	フランス流/フランス風ジャーナリズムとは何か?	17	情報の探求
3	ジャーナリストの社会的役割 - フランスの規定	18	情報と社会科学
4	ジャーナリストの社会的役割 - カナダの規定	19	情報と調査
5	ジャーナリストの社会的役割 - ベルギーの規定	20	情報と整理
6	ジャーナリストの社会的役割 - EUでの論議	21	報告と伝達
7	良きジャーナリスト(bon journaliste)の資質	22	ルポルタージュ (reportage)の方法
8	ジャーナリストの機能	23	ルポルタージュの実践
9	ジャーナリストの規範	24	ルポルタージュと主体性
10	ジャーナリストと法	25	ルポルタージュと客観性
11	メディアと法	26	インタビューの意義
12	ジャーナリストにかかわる法体系	27	インタビューの方法
13	読者・視聴者の期待	28	コミュニケーションとメディア
14	読者・視聴者の声を聴く	29	メディアの歴史的意義
15	情報、説明、コメント	30	ジャーナリズム・メディアと未来

科目名	メディア史特殊研究	担当者	大井 眞二	部別	大学院新聞 学研究科	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	---------------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	近代社会という固有の空間に成立した社会制度としてのメディアを、社会との関係性において歴史的に考察する研究の、アプローチおよび方法論を身につけることを目的とする。主として、アメリカ史学の伝統に依拠するアプローチおよび方法論に基づき、諸学派の特徴を講述する。具体的には、1970年代以降の批判的史学、とりわけコミュニケーション史、メディアの社会史、文化史などの新しい歴史研究のパラダイムを扱う。		
到達目標	①メディア史の方法論の基本的な理解 ②メディア史解釈の諸学派の特徴の把握		
履修条件	前期、後期を連続受講すること		
授業方法	教科書の批判的読解、個別的トピックの研究報告		
準備学習	指定文献の報告の準備		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	
教科書	最新の英語文献を使用するが、学生諸君の興味や関心を勘案して、相談の上決定する。		
参考書	『アメリカ報道史』（近刊）、武市英雄、大井眞二他訳、その他、各講義の折に適宜紹介する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	はじめに：受講上の諸注意、教科書・参考文献紹介	16	
2	メディア史・コミュニケーション史研究の誕生	17	
3	H・ガルシアの「コミュニケーション史」と全体論的アプローチ	18	
4	A・M・リーの社会学的メディア史	19	
5	S・コーバーのメディアの社会史	20	
6	歴史研究のパラダイム変化	21	
7	J・ケアリーの問題提起(1)：文化としてのコミュニケーション、コミュニケーションの文化史	22	
8	J・ケアリーの問題提起(2)「情報」から「会話」のジャーナリズムへ	23	
9	革新主義の支配、ジャーナリズムスクールの伝統：E・エメリーの「プレスとアメリカ」	24	
10	新しいパラダイム(1)印刷メディアと社会の理論：E・エイゼンシュティンの「変化の動因としての印刷機」	25	
11	新しいパラダイム(2)H・J・マルタンと「書物の歴史」	26	
12	新しいパラダイム(3)D・ホールと「ジャーナリズムのコレクティブ・メンタリティ」	27	
13	新しいパラダイム(4)M・シュドソンの「ニュースの社会学」と社会史的アプローチ	28	
14	新しいパラダイム(5) D・ハリンとP・マンシーニの比較コミュニケーション史的視点	29	
15	ジャーナリズム史学の変異(6)W. D. スローンの社会学的ジャーナリズム史とメディア史のレリバンシー	30	

科目名	メディア社会論特殊講義	担当者	小川 浩一	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	前期は近代社会における社会関係構築手段としてのメディアの機能が現代社会において変容している状況を大衆の視点から考察する。後期は情報化社会論の虚構性を明らかにした後に、現代社会の問題点をマス・メディアの娯楽機能の拡大に求めた考察を行う。		
到達目標	現代人が依拠している諸メディアの限界を認識すると同時に、にもかかわらずそれらメディアに多くを依存している人間の危険性を、インターネット情報依存型人間の危険性として理解する。		
履修条件	社会学、社会心理学および政治学の基礎知識を修得済みの者。知識不足の場合には補習を強制する。		
授業方法	履修者によるテキスト内容の発表とそれをもとにした討論を行う。討論資料は報告担当者が配布する。配布するレジュメは、対象者に論理的に理解させ、同意させるように最善の工夫をすること。安直な報告は認めない。		
準備学習	現代日本社会が直面している課題について新聞、雑誌、書籍、テレビを通じて十分理解していること。これができていないと授業に参加しても理解不能である。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	
教科書	佐藤俊樹『ノイマンの夢・近代の欲望』講談社メチェ		
参考書	佐藤卓巳『輿論と世論』新潮社		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	前期授業ガイダンス	16	後期授業ガイダンス
2	大衆の出現・・・オルテガ	17	近代民主主義とは何か
3	近代社会の特徴	18	国家と社会
4	近代的人間像	19	社会的統合と社会的崩壊
5	合理的行動の矛盾	20	現代日本の社会運営原則
6	情報過剰社会における情報選択	21	大衆と公衆
7	情報過剰社会における情報格差	22	理想としての公衆と現実としての大衆
8	言葉の貧困と貧困の言葉	23	公衆の意見・・・タルド
9	マス・メディア・リテラシー	24	大衆の行動・・・ルボン
10	教育の階層化とメディア・リテラシー	25	輿論による社会運営
11	マス・コミュニケーションと大衆社会	26	世論による社会運営
12	ポピュリズムを生むもの	27	マス・メディアかジャーナリズムか
13	ポピュリズムの帰結	28	他者指向と自己保身
14	携帯電話はコミュニケーションか	29	社会規範の弱化と社会依存の強化
15	まとめ	30	まとめ

科目名	メディア制度(外国)特殊研究	担当者	山本 賢二	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	これまで、国際情報は圧倒的に米国を中心とする西欧メディアが提供してきたが、中国の台頭は旧来の国際情報秩序を変える可能性を秘めている。本講義は、異なるメディア制度の下で、それぞれニュースが生産され、擬似環境を作り出しつつある米国と中国を比較しながら、我々にとってのメディア制度とはいかにあるべきかを考える。		
到達目標	米中のメディア制度の違いを認識し、国際情報を伝えるメディア制度を考える上での基礎知識を得ることに目標を置く。		
履修条件	特になし。		
授業方法	NHKなどで放映された関連番組なども利用、問題意識を啓発し、授業を展開する。		
準備学習	米国と中国の時事情報に注意すること。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	常に問題意識をもって授業に参加すること。授業での発言などが平常評価の対象となる。
	平常評価	50%	
教科書	本講義は、中国の研究者の研究論文を基礎資料としているため、必要に応じて授業時に関係論文を配布する。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス(「メディアとは」)	16	
2	米国と中国の憲法に見る「自由権」に関する規定	17	
3	輿論の監督の米中比較	18	
4	調査報道の米中比較	19	
5	ニュースの客観性の米中比較	20	
6	ニュースと国益の米中比較	21	
7	9.11事件報道の米中比較	22	
8	マスコミ文化の米中比較	23	
9	雑誌の米中比較	24	
10	相手国についての新聞報道の米中比較	25	
11	インターネットニュース管理の米中比較	26	
12	テレビの米中比較	27	
13	環境報道の米中比較	28	
14	情報伝達と米中関係	29	
15	まとめ(話し合い「我々にとって必要なメディア制度とは」)	30	

科目名	メディア制度(日本)特殊研究	担当者	岩淵 美克	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	政治環境の変化は、メディアシステムの変化と密接に関係している。その意味では、政治環境の変化を語るためには、メディアシステムの変化を理解していなくてはならない。本講義では、政治権力や政治アクターを中心として、日本のメディアシステム、とりわけマス・メディアとの関わりを分析して行く。現代メディア、政治の制度的特徴のみならず、研究・分析する方法論やアプローチ、現象を客観的に洞察する思考能力を磨く。		
到達目標	日本におけるメディアの特徴を理解するとともに、批判的な論評を加えることのできる視座をもつことも目的とする。		
履修条件	特に条件は設けないが、多様なメディアに絶えず触れながら、かつ批判的な視座をもって臨むことを希望する。		
授業方法	講義形式で行う。		
準備学習	多様なメディアに、批判的な意識を持って触れることを準備学習としたい。意識を持ってメディアに触れることの重要性を認識してほしい。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	講義時の態度や授業内の対話から総合的に評価する。
	平常評価	100%	
教科書	得に指定しない。		
参考書	講義時に提示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	
2	政治とマス・メディア	17	
3	政治権力とマス・メディア① 政府	18	
4	政治権力とマス・メディア② 政党	19	
5	政治権力とマス・メディア③ 政治家	20	
6	政治権力とマス・メディア④ 官僚	21	
7	政治権力とマス・メディア⑤ 記者クラブ	22	
8	政治権力とマス・メディア⑥ 地方自治体	23	
9	世論とメディア	24	
10	選挙とメディア	25	
11	社会事件とメディア	26	
12	利益団体とメディア	27	
13	司法とメディア	28	
14	エンターテインメントとメディア	29	
15	総括	30	

科目名	メディア調査演習Ⅰ	担当者	福田 充	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、日本大学新聞学研究所の共同研究に基づいて、具体的にジャーナリズムに関する実証研究を行うことによって、調査研究の企画、立案、方法論を学ぶことを目的とする。平成22年度は、同研究所が平成21年度に行った「ニュース・メディアの現状」研究などの具体的事例をもとに、企画や立案の過程などを例証しながら、調査対象の標本抽出や、質問紙調査の質問項目の作成などの作業手順を学ぶ。		
到達目標	別途指示する。		
履修条件	特になし。		
授業方法	調査方法に関する講義とディスカッション、実際の作業を中心に進める。調査票作成や統計分析でコンピュータを使用する。		
準備学習	別途指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	授業への参加度を重視する。
教科書	福田充(2010)『リスク・コミュニケーションとメディアへ社会調査論的アプローチ』北樹出版。		
参考書	日本大学法学部新聞学研究所編(2007)『日本のジャーナリスト1000人調査報告書』など。適宜講義で紹介する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	
2	プロジェクト研究の目的と意義	17	
3	研究における問題意識	18	
4	仮説とリサーチ・クエスション	19	
5	先行研究の収集と調査事例の検討	20	
6	調査対象の選定と標本抽出法	21	
7	調査方法の検討①： 質問紙調査	22	
8	調査方法の検討②： インタビュー、ヒアリング調査	23	
9	調査方法の検討③： フィールドワーク、観察法	24	
10	調査依頼と調査スケジュール管理	25	
11	質問紙調査の種類： 面接法からweb調査まで	26	
12	質問項目、調査票の作成作業	27	
13	調査実施とデータ管理	28	
14	データ分析作業に向けて	29	
15	まとめ	30	



科目名	メディア調査演習Ⅱ	担当者	福田 充	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、日本大学新聞学研究所の共同研究に基づいて、具体的にジャーナリズムに関する実証研究を行うことによって、調査研究の企画、立案、方法論を学ぶことを目的とする。前期の「メディア調査演習Ⅰ」で学んだ調査研究の企画、運営の知識をもとに、引き続き調査データの分析作業を行い、多変量解析などのデータ処理を学ぶ。調査結果を検討し、報告書の作成を行うとともに、発表のためのプレゼンテーション技法について学ぶことを通じて、ジャーナリズムに関する実証研究の手法を身につける。		
到達目標	別途指示する。		
履修条件	特になし。		
授業方法	調査方法に関する講義とディスカッション、実際の作業を中心に進める。調査票作成や統計分析でコンピュータを使用する。		
準備学習	別途指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	授業への参加度を重視する。
教科書	福田充(2010)『リスク・コミュニケーションとメディアへ社会調査論的アプローチ』北樹出版。		
参考書	日本大学法学部新聞学研究所編(2007)『日本のジャーナリスト1000人調査報告書』など。適宜講義で紹介する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	
2	ジャーナリズム研究における調査の意義と目的	17	
3	調査方法とデータ・フォーマットの関係	18	
4	データ入力の方法と編集作業	19	
5	変数の編集と尺度構成	20	
6	データ分析方法①： 単純集計と記述統計	21	
7	データ分析方法②： クロス集計とカイ2乗検定	22	
8	データ分析方法③： 相関分析と回帰分析	23	
9	データ分析方法④： 分散分析とT検定	24	
10	データ分析方法⑤： 因子分析と多次元尺度法	25	
11	データ分析方法⑥： クラスタ分析とパス解析	26	
12	分析結果の検討とグラフ・モデルの作成	27	
13	報告書の作成とデータの使用方法	28	
14	研究結果のプレゼンテーション	29	
15	まとめ	30	

科目名	メディア調査演習Ⅲ	担当者	柴田 秀一	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本講義は、インターンシップを具体化するもので、テレビ制作の現場におけるさまざまな問題点を整理しながら、テレビ・メディアの問題点を探る。具体的には、テレビ番組の制作の現場等の見学や実際の放送番組を通じて、テレビ放送、とりわけ報道や情報番組の抱える問題点を明らかにするとともに、今後のテレビ放送の課題を明らかにすることとする。		
到達目標	メディアへの就職や研究者等を目指す受講者へ、TV放送業の基本的な構造と問題点を習得する。		
履修条件	一年次生対象		
授業方法	基本的には、講義と受講生の議論、レポート発表等を通じて行なうが、必要に応じてテレビ制作の現場などフィールド・ワークを織り交ぜていく予定である。		
準備学習	特に教科書は指定しないので、講義終了前に次回講義の予習点を指示する。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	出席、授業態度、授業内レポート提出、授業内発表などを総合して評価する。
教科書	特に指定しない。		
参考書	必要に応じて適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	オリエンテーション	16	
2	テレビの抱える問題①：視聴率何故1%にこだわるか	17	
3	テレビの抱える問題②：収入と支出、CMと営業時間を売るとは何か。	18	
4	テレビ番組の制作①：編成とは何か・ニュース・情報番組・バラエティ番組・スポーツ番組等について	19	
5	テレビ番組の制作②：企画と企画書制作番組制作の端緒は何か	20	
6	テレビ番組の制作③：ニュース番組が出来るまでニュースは何処から情報を取りどうやって放送するか。	21	
7	テレビ番組の制作④：ニュース取材の手法実例に基づく取材手法	22	
8	テレビ番組の制作⑤：TV局現場の見学	23	
9	テレビ番組の企画①：報告とディスカッション番組企画書の発表	24	
10	テレビの抱える問題③：報道倫理名誉毀損、メディアスクラムは何故おこるか	25	
11	テレビの抱える問題④：BPOと放送倫理放送されることが増えたBPOとは何か	26	
12	テレビ局の放送外事業とインターネット携帯電話やインターネット事業が増えた。Webとテレビの関係はどうか	27	
13	NHKと民間放送受信料とCM料の収支方法の違いとそれぞれが抱える問題。	28	
14	テレビ番組の企画②：報告とディスカッション今伝えるべきレポートとパフォーマンス	29	
15	まとめ	30	

科目名	メディア法制特殊講義	担当者	小向 太郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	コンピュータとインターネットの急速な普及は、人々のコミュニケーションや消費行動の形を大きく変えつつある。通信と放送の融合や、従来の活字メディアとネットワーク配信の競合等、様々な形でメディアの融合が起こっている。便利なサービスが次々と登場する一方で、以前にはあまり見られなかった問題も深刻になっている。この講義では、前期において情報のデジタル化やネットワーク化に起因する問題について、主要な法制度上の論点や課題を解説する。そして、後期において、具体的な裁判例を検討していく。		
到達目標	情報と法についての基本的な知識と問題点に関する理解を身につけ、情報法に関して論ずることができるようになることを目指す。		
履修条件	特になし。		
授業方法	○前期（基礎講義）：情報法の基本的事項と最近のトピックについて、講義形式で説明する。 ○後期（判例研究報告）：情報法に関する裁判例について、受講者が分担して報告を行い、それを基に全員で議論する。		
準備学習	前期については、教科書の当該箇所を読み課題が出されている場合にはレポートを提出すること。 後期については、担当テーマについて報告を準備するとともに、他受講者の担当テーマについても判決文や解説を読んだのぞむこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	授業への参加、提出レポート、報告の内容によって評価する
	平常評価	100%	
教科書	小向太郎『情報法入門（第2版） デジタルネットワークの法律』NTT出版(2011)		
参考書	堀部政男・長谷部恭男編『別冊ジュリスト メディア判例百選』有斐閣（2005）		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	情報化と法律・制度（総論1）	16	裁判例検討の方法
2	情報化と法律・制度（総論2）	17	【裁判例研究】青少年保護とコンテンツ規制
3	情報化促進政策	18	【裁判例研究】海外サーバへのアップロード
4	電気通信に関する制度	19	【裁判例研究】コンテンツの転載と著作権
5	放送に関する制度	20	【裁判例研究】デジタル情報と著作権
6	情報化と知的財産権制度	21	【裁判例研究】放送に対する規制
7	情報発信に関する法的責任	22	【裁判例研究】コンピュータ、ネットワークと犯罪捜査
8	サイバー犯罪と刑事法の適用	23	【裁判例研究】活字メディアと媒介者責任
9	国境を越える情報と法適用	24	【裁判例研究】名誉毀損と媒介者責任
10	違法有害情報と青少年の保護	25	【裁判例研究】著作権侵害と媒介者責任
11	メディアと自主規制	26	【裁判例研究】発信者情報開示請求
12	ネットワークと媒介者の責任	27	【裁判例研究】プライバシー侵害
13	ネットワークと発信者情報	28	【裁判例研究】個人情報漏洩
14	プライバシーと個人情報保護	29	【裁判例研究】従業員の監督とメール監視
15	個人情報漏洩と法的責任	30	【裁判例研究】ネットワーク上のわいせつ物陳列

科目名	メディア理論演習Ⅰ	担当者	塚本 晴二郎	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習は、主にメディア倫理関係の教授陣を中心に講義と受講生の報告に対して論評を加えることで、異なる領域の方法論やプレゼンテーション技法を学ぶためのものである。したがって、受講生の発表を中心に行なう。		
到達目標	大学院生にふさわしい研究発表能力を身につける。		
履修条件	特になし		
授業方法	講義および受講生の報告を中心に行なう。		
準備学習	大学院生にふさわしい研究発表の準備。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	授業時の研究発表75%、発表者への質問等25%。
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	
2	メディアとは何か。	17	
3	メディア倫理の展開	18	
4	メディア倫理に関する時事的問題	19	
5	メディア倫理に関する事例研究	20	
6	メディア倫理に関する報告と批評	21	
7	メディア倫理に関する理論研究	22	
8	メディア倫理に関する報告と批評	23	
9	メディア倫理に関する事例研究	24	
10	メディア倫理に関する報告と批評	25	
11	メディア倫理に関する理論研究	26	
12	アメリカのメディア研究	27	
13	アメリカのメディア研究	28	
14	各国のメディア倫理	29	
15	まとめ	30	

科目名	メディア理論演習Ⅱ	担当者	岩井 奉信	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本演習では、メディアに関する実証的な分析、研究を実際に行うことを通じて、現代におけるメディア状況の実態を知ると同時に、メディアに関する分析方法についても学ぶことを目的とする。具体的な分析、研究の内容については、履修者の関心や問題意識にもとづいて決定する。		
到達目標	メディアの内容分析など、履修者が実際に分析、研究を行うことにより、どのような方法で何がわかるのかを体験的に理解することを到達目標とする。		
履修条件	漠然としたものでなく、具体的なメディアの内容に対する問題意識を持ち、実証研究を行う意欲を持った者が履修を許される。		
授業方法	本演習では、関連図書の輪読などではなく、実際に内容分析などの作業を行うため、授業時間以外にも一定の作業を助手などの協力の下で行う。その上で、成果の報告を行ってもらう。		
準備学習	特に準備学習は必要ないが、授業時間以外における作業ができるようにしておく必要がある。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	授業及び分析作業への参加状況、分析や研究への姿勢、研究報告の内容などについて、総合的に判断して評価を行う。
教科書	特に指定しない。		
参考書	適宜指示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	演習内容の説明と履修者の問題意識の確認	16	
2	履修者各自の課題についての議論	17	
3	メディアの内容分析に関する方法論の講義	18	
4	前半の分析課題に関する議論	19	
5	インデペンデント・リサーチと個別指導 1	20	
6	インデペンデント・リサーチと個別指導 2	21	
7	インデペンデント・リサーチと個別指導 3	22	
8	中間報告	23	
9	後半の分析課題に関する議論	24	
10	インデペンデント・リサーチと個別指導 1	25	
11	インデペンデント・リサーチと個別指導 2	26	
12	インデペンデント・リサーチと個別指導 3	27	
13	インデペンデント・リサーチと個別指導 4	28	
14	研究報告	29	
15	全体のまとめ	30	

科目名	メディア理論特殊研究	担当者	小川 浩一	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	現代社会における大衆社会状況の意味を検討するので、メディアをマス・メディアに限定する。大衆社会状況での社会成員の特徴を考察した後、そうした成員たちによって劇場化される諸社会現象とマス・メディアが如何に関わっているのかを論じることで、現代社会におけるマス・メディアの存在意義を問う視座を明らかにする		
到達目標	大衆社会における人間像のアモルフ性とフェイク性をメディア依存型人間類型の拡散から理解する。		
履修条件	社会学、社会心理学の基礎知識を習得の者。不足している場合には指導により修得させます。		
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部分を報告した上で課題を提起する方法をとる。毎回レジュメを配布すること。発表者以外の全員が読んでいることが前提である。事前の準備なしに討論に参加しないこと。		
準備学習	日常的に新聞を精読すること。日本の階層格差固定化に関する基本的知識を蓄積しておくこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	平生の授業における文献解題、報告、課題レポートの成果による。
教科書	『ジャーナリズムの社会学』		
参考書	『メディア批判』P.ブルデュー		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	大衆の登場	16	
2	マス・メディアと近代化	17	
3	公衆と大衆	18	
4	大衆と公共性	19	
5	大衆の階層分化	20	
6	分衆と小衆	21	
7	大衆コミュニケーション	22	
8	大衆とマス・メディア	23	
9	マス・メディアと民主主義	24	
10	輿論と世論	25	
11	ポピュリズムとファシズム	26	
12	階層社会と社会統合	27	
13	マス・メディアと社会変動	28	
14	孤独な群集と孤独な個人	29	
15	現代日本社会とマス・メディア	30	

科目名	メディア倫理特殊講義	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	--------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	メディアの倫理は、いまや言葉としては珍しいものではない。しかし、学問として体系的な「メディア倫理学」が確立しているかといえば、そこまでには至っていない。本講義では、メディア倫理学の先進国であるアメリカの研究、中でもクリフォード・クリスチャンズのメディア倫理学を参考にしながら、日本におけるメディア倫理学を模索しようとするものである。		
到達目標	日本におけるメディア倫理学の模索を一緒に議論できるようになる。		
履修条件	特になし		
授業方法	受講者に基本的な知識を持ってもらうために、基本的な文献の解説から始める。受講者に基本的な知識が備わった後は、日本におけるメディア倫理学の模索を受講者とともに、討論などで、行っていきたい。		
準備学習	毎回指定した文献に目を通してくる。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	100%	準備学習の程度50%、授業時に行う議論の内容等50%。
教科書	受講者に応じて決定する。		
参考書	授業時に適宜に紹介する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	クリスチャンズのメディア倫理学（功利主義批判）
2	アメリカ・ジャーナリズム倫理学の史的考察①	17	クリスチャンズのメディア倫理学教育方法論（Definition）
3	アメリカ・ジャーナリズム倫理学の史的考察②	18	クリスチャンズのメディア倫理学教育方法論（Values）
4	プレスの自由委員会と社会的責任論	19	クリスチャンズのメディア倫理学教育方法論（Principles）
5	ジョン・メリルの社会的責任論批判	20	クリスチャンズのメディア倫理学教育方法論（Loyalties）
6	グローバリズムとジャーナリズム倫理	21	GHQの占領政策と戦後日本のジャーナリズム倫理
7	普遍的行為規範の追究（ジョン・メリル）	22	新聞法制研究会と社会的責任論
8	普遍的行為規範の追究（エドモンド・ランベス）	23	戦後日本のジャーナリズム倫理研究
9	普遍的行為規範の追究（クリフォード・クリスチャンズ）	24	和辻倫理学と社会的責任論
10	メリルのTUFFの定則	25	ジャーナリストの行為規範（真実）
11	ランベスの5原理	26	ジャーナリストの行為規範（信頼）
12	クリスチャンズの原初的規範と基本的原理	27	ジャーナリストの行為規範（受託者）
13	クリスチャンズのメディア倫理学（その課題）	28	ジャーナリストの行為規範（アクセス）
14	クリスチャンズのメディア倫理学（相対主義批判）	29	ジャーナリストの行為規範（多元的視点）
15	クリスチャンズのメディア倫理学（道具主義批判）	30	総括

科目名	世論・政治意識とメディア(外国) 特殊講義	担当者	谷藤 悦史	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	デモクラシーはすべての人々の参加を前提に、人々の議論と合意に基づいて政治を進める。人々の意見による政治、世論の政治に他ならない。人々の意見に基づいて作られる世論とは何であるのか。世論は何によって形成されるのか。歴史の観点から見た時、現代の世論の特性は何か。「世論・政治意識とメディア」と題する本講座は、比較の視点から、世論を多角的に検討し、最後に現代の「世論」特性を明らかにする		
到達目標	世論の基本概念を理解し、世論研究の方法を習得する。		
履修条件	1年次生を対象とする。		
授業方法	講義形式と輪読形式で行う。		
準備学習	毎回事前に参考書の当該箇所を読んでおくこと。また、毎回の授業終了後、授業でやったことを参考書と突き合わせながらノートを整理しておくこと。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	
	平常評価	50%	
教科書	なし。		
参考書	谷藤悦史『現代メディアと政治』一藝社 G. J. Glynn, S. Herbst, G. J. O'Keefe and R. Y. Shapiro "Public Opinion 2nded, Westview.		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス	16	世論・政治意識とマス・メディア：影響①
2	世論とは何か？	17	世論・政治意識とマス・メディア：影響②
3	世論の定義	18	世論・政治意識とマス・メディア：利用①
4	近代の世論観①	19	世論・政治意識とマス・メディア：利用②
5	近代の世論観②	20	世論・政治意識と選挙キャンペーン①
6	世論調査の方法①	21	世論・政治意識と選挙キャンペーン②
7	世論調査の方法②	22	世論・政治意識と選挙キャンペーン③
8	世論調査の方法③	23	世論・政治意識と選挙キャンペーン④
9	世論・政治意識の理論：社会心理学モデル①	24	世論と政策決定①
10	世論・政治意識の理論：社会心理学モデル②	25	世論と政策決定②
11	世論・政治意識の理論：社会学モデル①	26	各国の世論状況①
12	世論・政治意識の理論：社会学モデル②	27	各国の世論状況②
13	世論・政治意識の理論：社会学モデル③	28	各国の世論状況③
14	世論・政治意識の理論：認知心理学モデル①	29	現代世論とデモクラシー
15	世論・政治意識の理論：認知心理学モデル②	30	総括



科目名	世論・政治意識とメディア(日本) 特殊講義	担当者	岩淵 美克	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------	-----	-------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	本講義は、世論とメディア、とりわけ政治意識とメディアの関係を分析していくこととする。前半では、世論とは何かをメインテーマとして、古典であるリップマンの世論概念をいかに現代社会に応用していくかを考察する。後半では、実際の世論形成におけるマス・メディアを中心とするメディアの報道や言説がどのような影響を与え、また与えられているかを実証的に考察することとする。		
到達目標	自らの政治意識を高めるとともに、若者の政治意識を高める方策を策定することをもって、到達目標としたい。		
履修条件	特に指定しない。		
授業方法	講義形式で行う。		
準備学習	日ごろからメディアなどの調査報道を中止するとともに、報道だけでなく皮膚感覚での世論の動向を意識することを準備学習としたい。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	講義時の態度や授業内での対話などから総合的に評価する。
	平常評価	100%	
教科書	特に指定しない。		
参考書	講義時に提示する。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容
1	ガイダンス	16	政党支持率の変遷① 55年体制
2	世論とは何か？	17	政党支持率の変遷② 保守回帰
3	① 世論研究とマスコミュニケーション効果研究	18	政党支持率の変遷③ 55年体制の崩壊
4	② 世論研究とマスコミュニケーション効果研究	19	政党支持率の変遷④ 連立政権
5	③ 世論研究とマスコミュニケーション効果研究	20	政党支持率の変遷⑤ 小泉政権以降
6	メディアの世論調査方法の変遷① 新聞	21	内閣支持率とメディア報道① 1960年代
7	メディアの世論調査方法の変遷② 新聞	22	内閣支持率とメディア報道② 1970年代
8	メディアの世論調査方法の変遷③ テレビ	23	内閣支持率とメディア報道③ 1980年代
9	メディアの世論調査方法の変遷④ その他	24	内閣支持率とメディア報道② 細川内閣
10	日本の世論と政治・選挙① 55年体制	25	内閣支持率とメディア報道③ 橋本内閣
11	日本の世論と政治・選挙② 保守回帰	26	内閣支持率とメディア報道④ 小泉内閣
12	日本の世論と政治・選挙③ 政治改革	27	内閣支持率とメディア報道⑤ 小泉内閣以降
13	日本の世論と政治・選挙④ 連立政権	28	メディア政治と政治意識
14	日本の世論と政治・選挙⑤ 小泉内閣以降	29	政治的無関心の問題
15	前期の総括	30	総括

科目名	リスクコミュニケーション論特殊講義	担当者	福田 充	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

【授業概要】

授業目的	現代社会はあらゆる事象がリスク化したリスク社会である。戦争、テロ、自然災害、大規模事故のような危機事態に際して、メディアにはどのような役割や効果があるか、自治体などの広報活動はいかにあるべきか、コミュニケーションの観点から考察する。		
到達目標	別途指示する		
履修条件	特になし		
授業方法	リスクに関する具体的な事例や理論を講義し、コンピュータやビデオを使用しながら、同時に出席者との活発な議論を行う。		
準備学習	別途指示する		
成績評価	種別	割合	評価方法
	筆記試験	%	授業への参加度を重視する。
	平常評価	100%	
教科書	福田充(2010)『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』慶應義塾大学出版会。		
参考書	福田充(2010)『リスク・コミュニケーションとメディア』北樹出版、福田充(2009)『メディアとテロリズム』新潮新書。		
オフィスアワー			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	リスクコミュニケーションとは何か	16	危機事態における広報： 危機管理とメディア
2	リスク社会学の誕生	17	自然災害とメディア①： 警報と避難行動
3	グローバル・リスク時代（金融・環境・テロ）	18	自然災害とメディア②： 被害情報と報道
4	テロリズムの時代とメディア①： 事例分析（911など）	19	自然災害とメディア③： 被災者の情報ニーズ
5	テロリズムの時代とメディア②： 社会的影響	20	自然災害とメディア④： 自治体とメディアの協力
6	テロリズムの時代とメディア③： 欧米の制度	21	大規模事故とメディア①： 交通機関事故
7	戦争とメディア①： 第2次世界大戦	22	大規模事故とメディア②： ライフライン事故
8	戦争とメディア②： ベトナム戦争	23	大規模事故とメディア③： 原子力事故
9	戦争とメディア③： 湾岸戦争	24	環境問題とメディア
10	戦争とメディア④： イラク戦争	25	新型ウィルスとパンデミック
11	インテリジェンスと情報機関	26	食品の安全・安心： 風評被害の社会心理
12	監視社会論	27	リスク消費社会の誕生： リスクの社会認知と世論
13	安全・安心 vs 自由・人権	28	企業・組織の危機管理とリスクコミュニケーション
14	クライシス・リテラシー	29	リスクコミュニケーションの社会教育
15	議論の総括	30	議論の総括